

令和5年度 事業報告書

(自) 令和5年 4月 1日

(至) 令和6年 3月 31日

1. 事業の概況

令和5年度になり新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の完全な終息は見られないなか、令和5年5月8日より「新型インフルエンザ等感染症（2類相当）」から「5類感染症」へ移行されました。社会活動も通常に戻す動きが進み、以前親しんでいたスポーツを再開する人々やゴルフから離れていく様子も見受けられました。

当会においても、社会の状況に目を向けながら計画通りの事業推進に努めました。

ゴルファーからの緑化協力金による公立の小中学校や病院、福祉施設、社会公共施設、及び国立公園や河川流域などの健全な緑化推進、環境保全・改善、美化等は、各都道府県緑化推進委員会や国立公園地域内団体、公益財団法人河川財団等の協力を得ながら、着実に推進いたしました。

GGG 国立・国定公園支援事業は、環境省と連携して実施いたしました。参加ボランティアの方々も従前のように戻り、賑やかに活動された団体もありました。登山者や公園利用者が増え、マナーの普及啓発や安全性、快適さを追求する活動が多く見られました。

被災地復興支援事業の「ゴルファー桜の森」と「ゴルファー未来の森」は、保全活動を丁寧継続していることから順調に成長しています。そして、それぞれの森で、森の役割や大切さを学ぶ「森林教室」は、子どもたちを育む未来へ繋がる活動として、学校や先生方、保護者からの揺るぎない信頼があります。

また、「ゴルファー未来の森 北官林」の近隣に、クロマツの保育管理・育樹活動が行われず藪と化していた防災林区域を整備し、サクラの苗木を植え「GGG サクラの森 Sendai」を造成いたしました。クロマツが地域を守り、サクラが人々の心を照らす森へと立派に成長することを願います。

さらには、平成27年に完成した「ふくしま県民の森フォレストパークあだたら」の600本の桜公園も、今後の健やかな成長には、病気や獣害に対する確かな対応と生育環境づくりが不可欠であると認識し、保全活動を始めました。

二戸市の「漆植栽事業」については、10月31日に「漆うるわしの森植樹祭」を盛大に開催し、浄法寺吉田地区0.86haに950本の漆の苗木を植栽しました。5年間で8.27haに8,180本の漆を植栽することができ、緑化促進のみならず、持続可能な自然環境の保全、及び日本の漆文化を理解し国民の心を豊かにする有意義な事業としても貢献しています。

希望を新たに歩みだした令和5年度でしたが、1月1日、最大震度7の能登半島地震が発生し甚大な被害を受けました。我々をとりまく環境の変化や動向に常に目

を向け、国民に心を沿わせ、令和6年度へと舵を取ります。

全国のゴルファー、ゴルフ場、会員、関連団体の皆さまには、変わらぬご理解、ご支援、ご協力を賜りますよう謹んでお願い申し上げます。

2. 会員の維持・拡大

入会を促進するのは厳しい状況ではありましたが、当会の趣旨にご賛同いただき入会された企業がありました。

また、ゴルフを楽しむホールインワン・アルバトロスを達成された102名の方々や、理解、応援してくださっている方々から、あたたかいご寄付をいただきました。

3. 事業活動

(1) 地方緑化事業

1. 緑化協力金の配分

令和5年9月（第93回配分・令和5年1月～令和5年6月緑化協力金分）に地方緑化事業費として10.1百万円を〔表1〕の各団体に配分しました。

〔表1〕 ゴルフ場の区分による地方緑化事業費の配分(委託)先等

ゴルフ場の区分	緑化協力金の配分(委託) 団体	委託事業内容と地方緑化事業費配分額 合計 10,174 千円
①一般 ゴルフ場	都道府県緑化推進 委員会等	公立の小中学校、病院、福祉施設など 社会公共施設への植樹 7,675 千円
②国立公園内 ゴルフ場	国立公園地域内団体等	国立公園等の環境・美化緑化活動 19 千円
③河川敷 ゴルフ場	河川財団	協力ゴルフ場のある水系の河川および その近傍における植樹等 2,480 千円

また、令和6年3月（第94回配分・令和5年7月～12月緑化協力金分）に地方緑化事業として11.7百万円を〔表2〕の各団体に配分しました。

〔表2〕 ゴルフ場の区分による地方緑化事業費の配分(委託)先等

ゴルフ場の区分	緑化協力金の配分(委託) 団体	委託事業内容と地方緑化事業費配分額 合計 11,792 千円
①一般 ゴルフ場	都道府県緑化推進 委員会等	公立の小中学校、病院、福祉施設など 社会公共施設への植樹 9,455 千円
②国立公園内 ゴルフ場	国立公園地域内団体等	国立公園等の環境・美化緑化活動 104 千円
③河川敷 ゴルフ場	河川財団	協力ゴルフ場のある水系の河川および その近傍における植樹等 2,233 千円

第93回及び第94回の配分合計金額（令和5年1月～12月 緑化協力金分）は、約22百万円になりました。

2. 地方緑化事業の推進

配分した前項の緑化協力金に基づき、各都道府県緑化推進委員会や国立公園地域内団体、公益財団法人河川財団では、緑化推進・環境保全のため、昨年度に続き、学校、老人福祉施設等の社会公共施設や、国立公園、河川流域周辺等へ、健全な緑化促進事業を実施しています。植樹のほか、植栽樹木のメンテナンスや除伐、花壇の造成など、社会環境の状況や変化に応じ、地域で喜ばれる緑化・環境整備活動も行っています。

個々の活動に際しては、会員ゴルフ場名を記載した標識・標柱の設置や、児童や学校長等から協力ゴルフ場への礼状の送付など、各緑化推進委員会を通じてお願いし、地域社会とgolfer・会員ゴルフ場との連帯意識の醸成に努めています。

事業報告については、第93回配分は令和6年2月迄、第94回配分は令和6年8月迄を提出期限としています。

(2) 全国緑化事業

例年、環境省、林野庁、都道府県等が主催する緑化・環境関連行事や民間の関連事業に協力や協賛をしています。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による公式の行動制限要請はなくなったものの安定しない状況を勘案し、開催されない行事やイベントもありましたが、以前のように賑やかに開催された行事もありました。

1. 緑化貢献の顕彰

「エージシュート大賞」と「緑化貢献大賞」については大変好評を得ています。会員ゴルフ場を通じて特製バッグ札を授与し表彰しています。「エージシュート大賞」については、12名の方が達成されました。年間最多プレーの方々を表彰する「緑化貢献大賞」は、17名でした。

2. GGG 国立・国定公園支援事業

国立公園や国定公園において、環境省と連携し地域の理解や協力のもと、自然環境保全を目的としたボランティア団体の健全な活動を支援いたしました。助成対象事業を明確にし、環境省地方環境事務所、または都道府県から推薦が得られた団体の申請を受け、選考委員会で厳正に審査し選定。16団体に助成いたしました。

案内看板・道標の設置や巡視活動、また登山道の保全・補修作業や周辺の植生復元作業、そして自然公園利用者へのマナー普及啓発活動等、増える登山者の安全や快適さを踏まえた活動が多く実施されました。また、生態系の保全の重要性が課題となっている現状に鑑み、外来植物の駆除を精力的に行うだけでなく、外来植物除去指導者を養成し大幅な増員を図った団体もありました。さらには、国の天然記念物でありながら環境省絶滅危惧種指定のエラブオオコウモリの観察行動調査を実施し、有意義な発見につなげた団体もあるなど、従来のように多くの方々がボラン

ティア活動に勤しんだ報告は、未来への希望に繋がりました。
事務局を一般財団法人自然公園財団にお願いいたしました。

(3) 植樹緑化事業

被災地復興支援、意義ある緑化推進、環境保全を、また次代を担う子どもたちの学校や福祉施設、公園などの公共施設をとりまく緑化環境の改善を念頭に、海岸林防災活動や森林教室、親子対象のイベント等、開催を推進いたしました。

1. 被災地復興支援事業

復興のシンボルである憩いの桜公園・桜の森づくりは、宮城県県民の森内、及び七ヶ浜町の表浜公園で推進しました。また、海岸防災林の再生事業については、維持管理に必要な保育作業を丁寧に実施しました。そして、荒浜北官林では桜の森を新たに造成しました。

(1) 宮城県県民の森「golfer桜の森」 (宮城県宮城郡利府町神谷沢)

a. 保全事業

平成30年10月6日と平成31年4月13日に計300本植樹し造成した「golfer桜の森」が健全に成長し、より多くの方の憩いのフィールドになるように捕植や保育管理を続けながら整備作業をしています。施肥作業、刈払整備、つる切り、点検など、4月から9月にかけて5回のべ34名で実施いたしました。ユリの根を掘るイノシシが原因で苗木の枯損や表土の攪乱が続いています。春先のスズメバチ捕殺トラップ設置の効果かスズメバチによる被害はありませんでした。ウサギ食害防止ネットが効いて、ウサギの食害も少なくなりました。

植樹本数 (本)	全枯損 (本)	ウサギ食害 (本)	上部枯損 (本)	要捕植見込 (本)
304	38	30	52	10
126 (捕植)	18	14	26	
割合	約 13.0%	約 10.2%	約 18.1%	全体 41.3%

b. 森林教室 — 仙台市立六郷小学校3年生

天候に恵まれた令和5年10月24日(火)、仙台市立六郷小学校3年生118名対象(引率教職員5名・森林インストラクター協会スタッフ29名)に森林教室を開催しました。

大人数のため17班に分かれ、午前中は、サクラの植樹や捕植、施肥活動、ウサギ防止のチキンワイヤー巻き、除伐体験活動や遊歩道づくり活動など、協力しながら森づくりに励みました。また、崖のぼりやロープ遊び、丸太引きや丸太運搬活動など、森ならではの運動も頑張りました。

午後は、フィールドアスレチックやパターゴルフ、輪投げ、スラックライン、スラックレールなど、色々な技術習得活動を楽しみ、ミニ独楽や小さな車づ

くり、けん玉、ビーズのミニリースづくりなど、9種ものネイチャークラフト活動に夢中になりました。

参加者が多く、運営には工夫が必要となりましたが、見通しの良い開放的で安全な「ゴルファー桜の森」ならではの多様なプログラムを実践できました。小学校3年生児らしく元気に時間ギリギリまで挑戦し、終始楽しそうでした。後日、児童からイキイキとそれぞれ楽しかった思い出など記されたお礼の手紙がたくさん届きました。

c. くりーんあっぷ作戦 2023

令和5年12月2日（土）50名以上ものボランティアが集い「ゴルファー桜の森」のある宮城県民の森清掃活動を実施しました。

ゴミが崖下等に散乱しており、気軽に清掃できる場所がありませんでしたので、親子やキッズ団体の募集は控えました。チームごとに協力し合い、崖下に降りて活動しました。例年のように家電やタイヤなど苦勞する粗大ゴミは少なかったものの、軽トラック20台分、0.8tのゴミを回収しました。

閉会式後は、久しぶりの昼食交流会でコミュニケーションを図りました。ボランティアの方々からは、「以前よりずっときれいだった。」「他の場所より、きれいだった。」「なぜ袋に入れた家庭ごみをわざわざ捨てるのか。」等、様々な感想が聞かれました。毎年の子清掃活動の効果を実感し、継続の必要性を再確認いたしました。

(2) 「ゴルファー桜の森 七ヶ浜」 (宮城県七ヶ浜町花淵浜字表浜二)

a. 保全事業

令和4年10月15日（土）と令和5年3月26日（日）に計318本植樹し、以後捕植や保育管理を続けながら、防災機能を備えたサクラの森として整備しています。刈払整備作業や蔓切り作業など4月から9月にかけて3回に渡り、のべ25名で行いました。また、仙台大学附属明成高等学校のイベントでも、整備作業を実施しました。

7月11日（火）の除草時までは問題ありませんでしたが、その後1ヶ月半ほど雨が降らず、また30～35℃の猛暑が続いたため、全ての苗木が葉を落としました。9月初旬の降雨で葉を出した木もありましたが、その後の猛暑でダメージが大きく枯損が発生しました。そのため、捕植や保育管理を続け、学校等の活動があるたびに施肥と捕植作業を行いました。来夏の対策としては、乾季には乾燥防止マルチを施します。

b. 森林教室 — 仙台大学附属明成高等学校スポーツ創志科 1年生

令和5年6月20日(火) 仙台大学附属明成高等学校スポーツ創志科1年生87名(引率教職員5名・森林インストラクター30名)対象に開催しました。午前の部と午後の部に分かれて活動しました。

「ゴルファー桜の森 七ヶ浜」及び七ヶ浜町表浜公園では、花があふれる美しい公園になるように、整備活動や除草活動に加え、ハマギクの植樹活動を行いました。また、公園内の枯れてしまっているタブノキ等をのこぎりで処理し、七ヶ浜町菖蒲田浜海浜公園でも枯損したり倒壊したりしているクロマツの伐倒や枝打ち、保全作業を行いました。そして、7月からオープンする七ヶ浜町菖蒲田浜海水浴場のビーチ清掃活動も実施。レジンペレット等の海洋プラスチックゴミをたくさん拾いました。清掃活動後は、きれいになった海岸でビーチコーミングや釣りの練習、植物観察に加え、長縄跳びやスラックライン、海岸洞窟探検など大いに楽しみました。参加の高校生たちは、固い土を掘るのは大変な作業ながらも一生懸命取り組み、見事に唐鍬やバールを使いこなしていました。中には海に来るのが初めてという生徒も多く、興奮と喜びの笑い声が響いていました。

c. 森林教室 — 富谷市立日吉台小学校 5年生

令和5年10月17日(火) 富谷市立日吉台小学校5年生95名(引率教職員5名・森林インストラクター28名)を対象に開催しました。地域の親子や緑の少年団を中心に植樹祭を予定していた10月15日(日)は、悪天候のため急遽中止せざるを得なくなり本教室の準備日にしました。森林インストラクターで、除草や植樹位置だし、160本分の穴掘り、仮設トイレの設置や肥料、ネイチャークラフト等の準備を行いました。

森林教室では、3つの活動「森づくり活動」「海岸遊び」「いろいろ体験活動」を3クラス12班に分かれて行うことができました。「森づくり活動」では、鍬を上手に使う丁寧に植樹をし、枯損木処理等は鋸を使って皆で協力し合いながら行いました。サクラ80本、ヤマハンノキとアキグミ計40本を植樹しました。「海岸遊び」では、表浜海岸でビーチコーミングに加えマイクロプラスチックゴミ清掃を行い、レジンペレットや豆管を中心に回収しました。

「いろいろ体験活動」では、ネイチャークラフト8種類の中から、それぞれ3、4ずつ集中して作品をつくりました。キャスターボード、キックボード、ボール遊びにも夢中になりました。はじめて体験する児童はスタッフに教わりながら一生懸命挑戦していました。皆、とても楽しく充実した1日を過ごせたようでした。

(3) 「GGG サクラの森 Sendai」開所式・協働植樹祭 (宮城県仙台市荒浜北官林)

「ゴルファー未来の森 北官林」は、平成 30 年度から植樹活動を開始し、継続的な保育活動により地域を守る森へと順調に成長しています。残念ながら、同区域内で海岸防災林再生を目的にクロマツが植樹されたものの、保育管理・育樹活動がなされず放置され、地元の方々が大変苦慮されている区域がありました。現地を視察したところ、成長不良なばかりか、クズであふれ区域に入ることも自体、厳しい状態でした。そこで、自治体や地元の方々からの強い要望もあり、クロマツの保全管理のみならず、いずれ華やぎ地域を照らすサクラの森を造成することに致しました。海岸防災林再生活動の発展と更なる震災復興へ貢献してまいります。

令和 6 年 3 月 24 日 (日)、公益社団法人宮城県緑化推進委員会及び特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会との共催により、令和 7 年秋に宮城県で開催される「第 48 回全国育樹祭」の関連記念植樹イベントとして「GGG サクラの森 Sendai」の開所式・協働植樹祭を実施いたしました。

クズの除草・処理作業や導線・移動路の整備、事前耕し・堆肥入れ作業など総勢 37 名のボランティアで準備作業を進め、当日を迎えました。

暖かく風も弱く、まさに絶好のイベント日和です。地元のチアーズクラブや緑の少年団、ボーイスカウト、一般の親子の皆さま、そして森林インストラクターやボランティアの方々など 52 名が集まりました。

開所式では主催者挨拶ののち、ご寄付くださった方々の銘板の除幕式を行い、ヤエザクラ、カンザン、カワズザクラの記念植樹を行いました。そしてオオシマザクラ 50 本、肥料木としてヤマハンノキ 25 本とアキグミ 25 本を植栽しました。サクラには、ウサギの齧害防止と寒風保護のため保護材を巻きました。5 月には一度外し、12 月には再び取り付けます。子どもたちは、一所懸命植樹し作業も順調に進みました。また、参加の親子とスタッフは一緒になって、終始笑顔で活動しました。

午後は、親子参加者だけが残りに、ネイチャークラフトとビーチコーミング、マイクロプラスチックゴミ清掃活動を交互に行いました。青空のもと、とても開放的な空間で、楽しそうにゴミ拾いをしたり身体を動かしたり、たくさん作品をつくったりしていました。

今後は、一年間に 3 回はクズ除草作業をイベント等で手伝ってもらいながら、管理を進めます。

(4) 「ゴルファー未来の森」＜山元・仙台・北官林＞

a. 保全事業 (令和 5 年 5 月～9 月)

海岸防災林の再生を目的に、平成 28 年度から平成 30 年度にかけ特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会の協力を仰ぎ、抵抗性クロマツを

植栽し「ゴルファー未来の森」を造成しました。現在は健全な育成を目的に保全事業を推進しています。

5月1日から9月30日にかけて、生育調査、状況確認をし、雑草除去、除草、刈払整備作業を行いました。生育良好につき施肥作業は実施しませんでした。

＜山元＞ (宮城県亶理郡山元町 3,000 m²)

生育調査、状況確認、刈払整備作業を2回に渡り18名で実施しました。雑草に負けない大きさ、太さに成長するも、残存緑地から侵入するクズがひどく保育管理作業の継続が必要です。冬場の枝打ち作業と本数調整伐作業も必要となります。

＜仙台＞ (宮城県仙台市荒浜田の神 2,000 m²)

生育調査、状況確認、刈払・蔓切り作業を3回に渡り10名で実施。生育は良好ながら、他の植樹地と比較すると生育はゆっくり。葉の色は薄く水はけが悪いものの問題はありません。

＜北官林＞ (宮城県仙台市荒浜北官林 1,000 m²)

生育調査、状況確認、刈払・蔓切り作業を3回に渡り11名で実施。順調に成長し、立ち入るのが厳しくなってきました。雑草は少なめですが西側の植樹地からクズが侵入し、除草は必要となります。

◇ 生育状況調査報告

(令和5年9月現在)

植栽年月	場 所	枯損数	生存率	生育状況	樹高最大
平成28年5月	山 元	1 / 506	99.8 %	良 好	304 cm
平成29年3月	山 元	25 / 517	95.2 %	良 好	320 cm
平成29年5月	仙 台	65 / 1000	94.0 %	良 好	260 cm
平成30年3月	北官林	30 / 512	94.1 %	良 好	264 cm
平成30年5月	山 元	123 / 526 捕植後良好	76.7 %	南側のみ良い 北側は悪い	200 cm

b. 森林教室 北官林 — 仙台市立六郷小学校3年生 (宮城県仙台市荒浜北官林)

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の影響もあり、屋外でのイベントや教室の開催の要請が多く、今や人気も定着しています。

令和5年9月22日 (金)、仙台市立六郷小学校3年生134名が集まり「ゴルファー未来の森 北官林」の保育活動、除草や施肥を行いました。そして自然観察、植物観察をし、海岸ではマイクロプラスチックゴミ清掃やビーチコーミングを元気に活動。貞山堀では水生生物観察にカニ釣り体験をしました。特にクロベンケイガニやアシハラガニがたくさん釣れ、児童は終始楽しんでいました。

マスク着用、検温、こまめな消毒など感染対策を十分行いつつ、複数プログラムを準備し、17班構成で活動場所を分散させ、多くの児童に対応しました。引率教職員5名と特定非営利活動法人宮城県森林インストラクター協会スタッフ33名が加わって総勢172名という大人数で開催することができました。たくさんの笑顔があちこちに溢れた1日となりました。

c. 冬の保全事業 < 山元・北官林 > (令和5年11月～令和6年3月)
より健やかな成長を願い海岸防災林本数調整伐枝打ち作業を実施しました。

< 北官林 > (宮城県仙台市荒浜北官林 1,000㎡)
令和5年11月から令和6年1月にかけて、4回に渡りボランティア総勢58名で、本数調整伐作業、枝打ち作業を実施しました。11月23日(木)には、一般のイベントに参加されていた方々68名にも協力してもらいました。参加の子どもたちは、海岸防災林の役割なども学びながら、枝打ち・本数調整伐活動を頑張りました。

< 山元 > (宮城県亶理郡山元町 3,000㎡)
令和6年2月から3月にかけて、総勢52名で本数調整伐作業や枝打ち作業を実施しました。今後の成長が楽しみです。

(5) ふくしま県民の森 フォレストパークあだたら「桜公園」保全活動 (福島県安達郡)

平成24年12月に社団法人福島県森林・林業協会の協力を得、財団法人ふくしまフォレスト・エコ・ライフ財団と「植樹緑化協定書」を締結し、平成25年より平成27年の3年に渡り、地元の方や県内外から訪れる方々の心を癒す復興のシンボルとなる桜公園を造成しました。平成25年には住友林業株式会社より醍醐寺の桜をご提供いただき、10本のサクラとともに植栽しました。平成26年春には滝桜を含む170本を第1広場に、180本を県道沿いに、そして秋には180本を第2広場と県道沿いに、さらには平成27年春にも県道沿いに60本を植栽し、合計600本の桜公園が完成しました。

植栽後7年から9年が経ち、桜公園の現況を確認するため、令和5年11月15日(水)に現地を視察いたしました。今後、健やかな生育を促進するには、病気や獣害により支障が生じているサクラへの対応や、望ましい環境づくりが不可欠であると判断し、樹木医や専門家と相談しながら順次対処していくことにいたしました。

令和6年3月に保育作業を計画するも、雪降る日もあり予定通りには取り掛かれませんでした。3月18日(月)から30日(土)にかけて実施することができました。まずは、記念樹3本「醍醐の桜」「三春の滝桜」「ゴルフ緑化促進会記念樹」が植栽されている第1広場の固い土の根ほぐしです。周囲約2メートル幅を重機で掘り、堆肥を播いて埋め戻しました。土を柔らかくしたところで、施肥も行いました。第2広場ではカモシカの食害等により枯死している箇所もあれば元気に成長し

ている箇所もあるので、サクラを移植し、バランスの良い広場に整備いたしました。第2広場と第4駐車場から合計9本の移植作業となりました。記念樹の開花をとても楽しみにしながら、今後も健全な生育環境を作ってまいります。

2. 健全な緑化・環境教育支援事業

(1) 二戸市「漆うるわしの森」植栽事業 (岩手県二戸市浄法寺町 7.31ha)

二戸市が取り組んでいる漆の植栽・漆職人育成事業等に賛同し、漆植栽事業を令和元年度より二戸市漆産業課と連携し推進しています。

令和元年度、漆原地区(市有地)に植栽した3,650本の苗木、そして令和3年度の漆澤地区(国有地)の1,380本、令和4年度馬洗場地区(市有地)の2,200本が健全に成長するように、6月中旬から8月下旬にかけて、下刈りを実施しました。毎年度2回ずつ行っておりますが、馬洗場地区は雑草が少なく1回で完了しました。自然災害や鳥獣による食害被害は確認されませんでした。定期的に観察を続けていきます。

また、令和5年10月31日(火)、地元小・中学生、団体、企業、ボランティアの方々等、総勢24団体256名が集まり、盛大に「漆うるわしの森 植樹祭」を開催いたしました。浄法寺吉田地区(国有地)0.86haに950本の漆苗木を、漆の苦手な子どもたちは木地用トチ220本を植栽しました。藤原二戸市長、木滑理事長の挨拶、小学生と中学生の2名による活動宣言で始まり、参加者は6グループに分かれ漆掻き保存会や漆生産組合の方々から植栽方法の説明を受けました。その後、小学生は3名、中学生は2名1組となり、大人も子どもも元気に植栽活動に勤しみました。クロージングセレモニーでは、代表の児童が、漆の大切さを学び地域を誇りに思い繋いでいく決意を表明しました。参加者の笑顔があふれ、本事業の意義を実感する植樹祭となりました。

今後、令和元年度整備の漆うるわしの森(漆原地区)については、漆に関連した森林学習や視察等の受け入れ、観光・体験ツアーコースなどに活用を計画しています。そして令和3年度から5年度整備の漆うるわしの森(漆澤地区・馬洗場地区)については、林齢が浅いので生育状況の定期観察を行っていきます。

(2) 緑のまなび事業

昭和25年(1950年)以来、国土緑化運動の中心行事として開催されている全国植樹祭^{*}、及び昭和52年(1977年)より継続して森を育てることの大切さを普及啓発するために開催されている全国育樹祭^{*}それぞれの開催県内の学校教育環境の向上を図るため支援をしています。学校の環境緑化、整備、改善を通じ、健全な環境づくりをすることで、未来を担う子どもたちの積極的な緑化活動へと導くきっかけといたします。また、地域の方々の理解や協力に繋がります。

※毎年、全国植樹祭は春季、全国育樹祭は秋季に公益社団法人国土緑化推進機構

と開催県の共催により実施されています。

- a. 岡山県備前市香登小学校** (岡山県備前市香登)
- 令和6年5月26日(日)、第74回全国植樹祭が開催される岡山県において、開催機運の醸成を図り、学校教育環境の向上を目的とし、学校創立150年を迎える備前市立香登小学校を対象として緑のまなび事業を実施しました。
- 令和5年10月から12月には、児童が安心・安全な学習活動を行えるように運動場の巨樹や老樹(サクラ、エノキ、アラカシ)の樹木剪定を行いました。
- そして、令和5年12月21日(木)、全国植樹祭開催と創立150周年記念を祝う緑のまなび事業完成式典が開催されました。児童が花を楽しめるように、ハナミズキの記念植樹をし、びぜん緑の少年隊[※]に制服の贈呈も行いました。
- 本事業を通じ児童の安全が確保され、緑の大切さや手入れの必要性を学び、同時に緑の少年隊の励みになる活動ができたこと感謝の言葉がありました。
- ※びぜん緑の少年隊は、緑の少年団のように学校単位で設立される学校団とは異なり、地域で設立される地域団です。全国植樹祭のための苗木育成活動に参加しています。

- b. 茨城県稲敷市立あずま北小学校** (茨城県稲敷市伊佐部)
- 令和5年11月12日(日)開催の第46回全国育樹祭を記念し、校舎裏に学校林を有する稲敷市立あずま北小学校を対象に、令和5年10月から令和6年2月にかけて安全安心を念頭に、手入れが行き届かない学校林の再生と敷地内樹木の剪定活動を行い、森林環境学習の環境を整備しました。学校林の剪定や下刈り、階段補修、そして校庭樹木の剪定や花壇の土壌入れ替えなど、児童も参加して実施しました。
- 令和6年3月12日(火)、来賓、学校関係者など含め49名が参集し、完成式典が開催されました。悪天候により校庭でのカエデの記念植樹は後日へと延期になりましたが、緑の少年団へ制服の贈呈も行い、今後の活動へエールを送りました。
- 児童は、手入れ不足の影響や整備の大切さを学ぶとともに、取り巻く環境に感謝する機会にもなり意義深い活動であったと嬉しい言葉がありました。また課題も見つかり、今後も児童の活動のなかで環境整備が行えるように計画していくとの報告がありました。

4. その他事業

(1) ホームページの充実

ゴルファーのみならず、誰からも当会活動への興味、理解が得られるように、また賛同、支援へ繋がるようにホームページをさらに充実した内容へと、適時フェイスブックとともに更新、刷新を図っています。

(2) ロハスフェスタへの後援

国民スポーツとしてのゴルフの健全な発展、及び活性化に資するため、年間を通じロハスフェスタ万博春（第37回）（4月28日～30日/5月3日～7日/5月13日～14日）、ロハスフェスタ東京（第13回）（10月20日～22日）、ロハスフェスタ万博秋（第38回）（10月27日～29日/11月3日～5日/11月10日～12日）を後援しました。

「ロハスフェスタ万博2023春」は、地球温暖化防止対策に向けた行動を実践することを目的に、万博記念公園・東の広場で開催されました。大阪府危機管理災害対策課や公園管理事務所等の協力を得ながら、来場者、出展者、関係者の健康と安全を最優先に感染症対策を実施。来場者は前回のロハスフェスタ万博2022秋より47,000人多い192,575人、そして出展数は271店多い1,022店舗となり、賑やかにヒト・コト・モノの貴重な出会いの場となりました。リサイクルについては牛乳パック、天ぷら油、古本、紙袋に加え、Tシャツの回収も初めて試みました。

13年目を迎えた「ロハスフェスタ東京2023」は、天候にも恵まれ43,933名の来場者に322店舗の出店で大いに賑わいました。今回は『愛が見つかるLOHAS FESTA』をテーマに、ロハッチSDGsクイズラリーやキッズエコツアー、クラフトワークショップ、生きもの観察会、絵の具であそぼう！等、多くの企画への参加を通じて、楽しみながらエコを体験、実践していただきました。牛乳パックや天ぷら油、ゴミ等のリサイクルについても、多くの協力がありました。

「ロハスフェスタ万博2023秋」は、9日間のうち1日荒天で中止されましたが、178,480名もの方々が来場され、たくさんの笑顔と笑い声に溢れていました。リサイクル品の回収も定着し、ロハッチSDGsクイズラリーへの参加も多くありました。

2023年で17年目を迎えたロハスフェスタは、嬉しいことに3つのアワードを受賞しました。7月、SDGsマガジン「ソトコト」が主宰する「ソトコト・ウェルビーイングアワード2023」を受賞。ウェルビーイングな社会づくりに貢献する取り組みとしての評価です。10月には「2023年度グッドデザイン賞」を受賞。1957年の開始以来、シンボルマークの「Gマーク」とともに広く親しまれてきた日本で唯一の総合的なデザイン賞として、有形無形のあらゆるデザインを評価・顕彰しています。そして11月、環境省主宰の「第11回グッドライフアワード」において「実行委員会特別賞 EXPO2025いのち動的平衡賞」を受賞しました。これは、日本各地で実践されている「環境と社会によい活動を応援する」表彰プロジェクトの一環です。

今後は、ロハスフェスタが環境やウェルビーイングをテーマに、より喜ばれる質の高いイベントへと成長を続け、子どもたちが輝ける未来へと、さらなる飛躍を期待し応援してまいります。

公益社団法人 ゴルフ緑化促進会

◇令和5年度 ロハスフェスタ開催成果

	入場者数	出展数	回収量					
			牛乳パック	Tシャツ	使用済み天ぷら油	ゴミ	古本回収	紙袋回収
ロハスフェスタ万博2022春 令和5年 4月 28日(金)～ 30日(日) 5月 3日(水)～ 7日(日) 5月 13日(土)～ 14日(日) 於：万博記念公園・東の広場(大阪府吹田市)	192,575 人	1,022 ブース	61 kg	23 枚	330 L	2,420 kg	293 冊	2,650 枚
ロハスフェスタ東京2023 令和5年 10月 20日(金)～10月22日(日) 於：光が丘公園 芝生広場(東京都練馬区)	43,933 人	322 ブース	60 kg	- 枚	130 L	- kg	36 冊	91 枚
ロハスフェスタ万博2023秋 令和5年 10月27日(木)～ 29日(日) 11月 3日(金)～ 5日(日) 11月10日(金)～ 12日(日) 於：万博記念公園・東の広場(大阪府吹田市)	178,480 人	844 ブース	61 kg	- 枚	240 L	1,770 kg	176 冊	2,923 枚
合 計	414,988 人	2,188 ブース	182 kg	23 枚	700 L	4,190 kg	505 冊	5,664 枚

(3) 令和6年能登半島地震被災地復興・復旧支援

令和6年1月1日(月)16時10分、石川県の能登半島地下16km地点でマグニチュード7.6、最大震度7の大きな地震が発生しました。日本海沿岸で広範囲にわたる津波が観測されたほか、土砂災害、火災、液状化現象なども各地で確認されました。交通網は寸断され、家屋の倒壊が相次ぎ死者も240名を超えるなど甚大な被害に遭いました。

復旧に時間がかかっているなか、すぐ対応できることは何かを考慮し、避難所などで収納棚や間仕切り等、自由に何でも、誰でも簡単に作れる組立て什器「組手什」を公益社団法人石川県木材産業振興協会の協力により、公益社団法人国土緑化推進機構を通じて支援いたしました。木の温もりや香りとともに、プライバシーの保護にも繋がり、生活環境の改善やストレス軽減の一助になることを願っております。

今後は、復旧復興途中の様々な地域に思いを馳せ、心を沿わせ、望まれることは何か、できることは何かを常に追及してまいります。